

2024年4月14日

「夜明けの食事」

ヨハネによる福音書 21:1-14

早川 真牧師

今朝与えられた聖書の箇所には、イエスが弟子たちに三度目に現れた時の出来事が記されています。三度目にイエスが弟子たちに姿を現された時、漁師であるペトロとゼベダイの子たちを含む7人の弟子がガリラヤ湖に漁に出ていました。しかし彼らは漁師であったにもかかわらずその夜は何もとれませんでした。

4人の弟子がイエスに一番初めに召しを受けた時も彼らは夜通し苦勞しても何もとれず、しかしイエスの言葉に従って網を降ろしたのでした。その結果おびただしい魚がかかり、網が破れそうになりました。今朝の箇所でもイエスの言葉に従って弟子たちが網を打った時、網を引き上げることができないほどの魚がかかりました。

私たちはイエスのもとに行くなら空腹を満たしていただくことができます。しかしイエスはそこに弟子たちの魚を加えることを望まれました。それは私たちの働きによって得た成果もまた人々の空腹を満たすために用いられるということです。イエスが弟子たちを捕らえたように、弟子たちもこれから多くの人を捕らえ、キリストの救いに導くこととなります。しかしそれは弟子の力によってではなく聖霊の導きによって得た成果でした。私たちが自分の力の限界によって聖霊の導きに従った時、主は私たちに思いもよらない成果を与えてくださり、主はその成果をご自分の成果と合わせて食卓を整えてくださいます。今朝復活の主は、私たちにも「今とった魚を何匹か持ってきなさい」と言われます。この主の言葉に従い、それぞれに与えられた恵みを持ち寄って、日々主の食卓に連なるものでありたいと思います。